

## 新しい救急救命処置と実証研究

## ニュースレター

平成 24 年度厚生労働科学研究費補助金 「救急救命士の処置範囲に係る研究」 研究班事務局 発行

## 登録状況

## &lt;新規&gt;

10 月中旬×日

～11 月末×日

低血糖 72 件

重症喘息 1 件

ショック 171 件

合計 244 件

## &lt;累計&gt;

7 月 1 日

～11 月末×日

低血糖 539 件, 168 件

重症喘息 53 件, 8 件

ショック 1,453 件,  
378 件

合計 2,045 件, 554 件

黒字は非介入件数

赤字は介入件数

※数値は一次集計値であり、修正される可能性があります。

新しい処置の実施に際しては、くれぐれも無理をせず、傷病者の安全第一でのご対応をお願いします。

## ➤ 介入期間でも、多数の登録ありがとうございます！

10 月中旬×日から 11 月末×日までに、三処置合計で新たに、介入期間で 244 件の登録がありました。これまでの累計で、非介入期 2045 件{低血糖 539 件、重症喘息 53 件、ショック 1453 件}、介入期 554 件{低血糖 168 件、重症喘息 8 件、ショック 378 件}となっています。引き続きの、多くのご登録、本当にありがとうございます。

## &lt;非介入期の登録状況&gt;

- ・血糖測定と低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与  
最多登録 MC 協議会 (神戸市 MC 協議会) 9 件
- ・重症喘息に対する吸入  $\beta$  刺激薬の使用  
最多登録 MC 協議会 (神戸市 MC 協議会) 1 件
- ・心肺機能停止前の静脈路確保と輸液  
最多登録 MC 協議会 (札幌市 MC 協議会) 18 件

➤ **お願い** 医療機関記入欄の確実な記載をお願いします！

MC 協議会、消防本部によっては、医療機関記入欄の情報の空欄が多いところがあり、情報の取り纏めに支障をきたしつつあります。地域のいろいろな事情があると存じますが、できるだけ確実な記載をお願いします。

## ➤ 年末・年始の傷病者登録について ～FAX は休止です～

12/29 から 1/3 までの間の、中央モニターへの FAX 送信はご遠慮願います。1/4 以降に順次送信して頂くようお願い致します。

年末年始 12/29-1/3 までの 6 日間、FAX を設置している建物が立ち入り禁止となるために、傷病者登録用紙の FAX の用紙不足、紙詰まりなどのトラブルに対応できず、データの受信の不備が生じる可能性があります。

併せて、傷病者登録用紙管理台帳も 12/25(火)～1/6(日)までの 2 週間分の報告を 1/7(月)にまとめて頂き、エクセルデータ(管理台帳)もいつも週初め AM 中にメール添付して送って頂くのと同様に、1/7(月)に宜しくお願い致します。

(※有害事象の発生については、年末年始などの時期にかかわらず、これまでどおり、「有害実証発生時の対応アルゴリズム」に沿って、迅速な対応をお願いします。)

## お願い

～ニュースレターの供覧を～

参加されている全ての救急救命士の方、教育・研修に携わった消防学校などの方に、このニュースレターをご供覧いただけるように、各MC協議会、各消防本部のご担当者様には、ご配慮いただきますようお願いいたします。

## 新しい処置の 教育・研修について ご意見を 募集しています！

今回の実証研究への参加にあたって各MC協議会で実施した教育カリキュラムについてのご意見を募集しています。全体の研修時間の長さ、内容（こういった項目が必要であったなど）についての忌憚のないご意見をお待ちしています。個人的なご意見で結構です。

(→事務局にメール願います。)

## ➤ 「必要な傷病者には信念を持って処置を行う」高橋救命士

これまで報告を受けた中で、本邦で初めて救急の現場で心肺停止前に静脈路を確保し輸液を行った、秋田市消防本部の高橋救急救命士に、当時の状況などをお聞きしました。

### ○経過

<出動> 10月からの介入期に入り数日が過ぎたある日の朝、私は隊のメンバーと共に救急車内にいました。今思えば、予感めいたものがあったのかもしれませんが。実は、その日、資器材をチェックしながら、三処置のプロトコルや同意取得時の連携について若い隊員達に説明しながら、私自身も想定訓練を行っていたのです。訓練に救助隊員も加わり、次第に熱を帯びてきたその時、突如、スピーカーから「意識なし、救助出動(PA連携)」との指令が流れました。



秋田市消防本部  
高橋公成救急救命士

<現場活動> CPA(心肺停止状態)も想定し、隊員に指示を与えながら現場に到着しました。接触時、傷病者の意識の状態はJCS2桁、虚脱し、顔色蒼白、冷汗、脈拍微弱を認め、ショック状態であることは直ちに把握できました。新しい処置の実施対応へ切り替えるよう指示しながら、頭の中では「落ち着け、焦るな」と自らに言い聞かせていました。これまでの訓練を反芻しながら傷病者の家族へ説明しましたが、自分でも驚くほどスムーズに言葉が出てきました。家族の理解も良好で、同意に前向きな様子が伺えました。

後着した救助隊員の活動支援を受けながら傷病者を車内に収容し、私は同意書に従って「処置にともなう不具合」、「拒否も可能」など、やや後ろ向きの部分についても確実に説明し、家族から署名をいただきました。MC医師からの指示と、同意書の署名を確認し、輸液準備を行い、支援する救助隊員1名の同乗をえて、接触から8分で現場出発となりました。

走行中の車内では、家族の視線を手元に感じつつ、意識のある傷病者に声をかけながら右前腕に20Gで確保しました。病院到着前には血圧とSpO2値の上昇を認めました。

### ○所感・皆様へのメッセージ

介入期間が開始されてから、「処置に必要な傷病者には信念を持って実施する」と心に決めていました。そのため、観察から実施までの決断は早かったと思います。しかし、適応判断と同意取得に際しては責任の重さを痛感し、静脈路確保ではCPA事案や病院実習で行う時とは全く異質な雰囲気を経験しました。“これが救命士の新しい処置なのだ”と改めて実感したというのが正直な感想です。しかし、これらのハードルをクリアし、傷病者の笑顔を目にしたとき、自分が大きな一歩を踏み出したような達成感で胸が熱くなり、誇らしい気持ちになりました。

救急隊の新しい未来は、「信念と技術」を持った実証研究に参加する救命士たちの双肩に掛かっています。傷病者の救命に多くの可能性を秘めたこの処置を確実にを行い、歴史に足跡を残しましょう。

ホームページ大幅更新

関係者の方から、HPの改善についてのご支援の申し出をいただき、この度、HPを大幅にリニューアルすることができました！

パワーアップしていますので、是非、ご覧下さい。

<http://kyumeisi.com/>

➤ **地域発** <秋田市消防本部>

**ワーキンググループを立ち上げて、体制整備を推進！**

秋田市消防本部（秋田県）より、地域の取り組みについて情報提供いただきました。各地域 MC 協議会・消防本部での体制整備にあたり、参考にしてください。

秋田市の人口は32万人。救急体制は1本部5消防署2分署7出張所体制の下、8隊の救急隊を稼働させています。35名の認定救命士により全隊が実証研究に参加しています。救急救命士と7病院の救急担当医（MC医師）とは、ダイレクトに繋がるホットラインにより迅速で円滑な連携が可能となっています。

今回の実証研究に参加するにあたり、所属を超えて救急課（本部）や消防署間を横断的に活動できるように、11名の救急救命士による「新三処置ワーキンググループ」を5月に立ち上げ、現場の救急救命士の「やる気」を喚起し、積極的な実証研究参加を促しました。

WGでは、救命センターMC医師と連携し、参加救急救命士の教育や研究班からの情報を速やかに共有するなど、スピーディーな対応が可能となっています。

<秋田市消防本部 救急課長補佐 伊藤博之（救急救命士）>

**地域の情報をお伝え下さい！**

消防本部、地域 MC 協議会の状況や、実証研究への取り組みなどについて、是非お知らせください。地域の具体的な状況を、多くの読者が知りたがっています！

→ [fujita\\_kyukyuka\\_hisyo@yahoo.co.jp](mailto:fujita_kyukyuka_hisyo@yahoo.co.jp)

全体の登録状況	非介入・介入	7月前半	7月後半	8月前半	8月後半	9月前半	9月後半	10月前半	10月後半
	低血糖	9	12	64	78	146	66	82・19	66・18
	重症喘息	1	2	6	9	12	12	4・0	7・0
	ショック	33	39	163	204	401	213	195・19	162・20
	合計	43	53	233	291	559	291	281・38	235・38
	非介入・介入	11月前半	11月後半	12月前半	12月後半	1月前半	1月後半	累計	
	低血糖	16・59	72	—	—	—	—	539・168	
	重症喘息	0・7	1	—	—	—	—	53・8	
	ショック	43・168	171	—	—	—	—	1453・378	
	合計	59・234	244	—	—	—	—	2045・554	

※締め日の都合上、月の前半後半の境日は必ずしも15/16日、末日/1日とはなっていません。